

NPhA

隔月刊誌
[エヌファ]

NPhA

Exclusive Interview

特別対談

首都圏7薬剤師会に

呼び掛け

災害時の支援枠組みを協議

能登半島地震で活躍したモバイルファーマシー、
大都市では機動性高い小型も有効!?

公益社団法人 東京都薬剤師会 会長

高橋 正夫 氏

一般社団法人 日本保険薬局協会 理事
岡村 由紀子 氏



高橋 正夫氏

岡村 由紀子氏

Visiting

【訪問シリーズ】 大阪・関西万博にドラッグストア出店

「アカカベ」ブランドを
世界に向けて発信

株式会社アカカベ (大阪府)

Round Table Discussion

【座談会】 若手経営者に聞く～薬局経営の未来～

離島・へき地医療を守るため
地域事情に応じた
行政施策を期待

株式会社コスモファーマ
代表取締役社長
藤田 愛里 氏

株式会社メディックス
代表取締役社長
松村 有里子 氏

株式会社薬正堂
代表取締役社長
宮里 早香 氏



藤田 愛里氏

宮里 早香氏

松村 有里子氏

4 Exclusive Interview

特別
対談

首都圏7薬剤師会に呼び掛け 災害時の支援枠組みを協議

公益社団法人 東京都薬剤師会

会長 高橋 正夫氏

一般社団法人 日本保険薬局協会

理事 岡村 由紀子氏

10 Round Table Discussion

座談会 若手経営者に聞く～薬局経営の未来～

離島・へき地医療を守るため地域事情に応じた行政施策を期待

株式会社コスモファーマ(福島県)

代表取締役社長 藤田 愛里氏

株式会社メディックス(東京都)

代表取締役社長 松村 有里子氏

株式会社薬正堂(沖縄県)

代表取締役社長 宮里 早香氏

9 Investigation

NPhA 薬局機能創造委員会 「保険薬局における医療DX活用と業務貢献等の実態調査」結果を公表

マイナ保険証受付時に重複・禁忌チェックを8割超が「毎回または必要時」実施

16 Regular General Meeting

日本保険薬局協会 令和7年度 定時総会を5月21日開催

三木田会長「インフレ対応の財源は診療報酬とは別建てに」

18 Visiting

訪問シリーズ 「大阪・関西万博にドラッグストア出店」

「アカカベ」ブランドを世界に向けて発信

株式会社アカカベ(大阪府) 代表取締役社長 皆川 友範氏

17 Local Circumstances

NPhA 都道府県担当者に聞く地域事情 「岐阜県」

たんぼ薬局株式会社 第一業務運営部第3エリア エリアマネージャー 恩田 哲裕氏

21 Partnership

薬剤師との連携を目指して

株式会社フロンティア フロンティア薬局橋店(兵庫県) 鈴木 範子氏

22 Workshop

NPhAワークショップ 開催レポート

24 Beyond The Sea

米国&英国からのレポート 「ワクチン接種と感染症」

アメリカ 全米で麻疹の感染が拡大、テキサス州では10年ぶりに死者 大野 真理子氏

イギリス 薬局の利益大きい旅行者向け渡航ワクチン 國分 麻衣子氏

28 At The Top

地域のトップランナー ニューロンネットワーク株式会社(大阪府)

30 Diary

薬局管理栄養士ダイアリー

株式会社なの花東北(青森県) 事業部 管理栄養士 壬生 美咲氏

32 NPhA 新会員紹介

33 ファーマシーセミナーオンライン研修開催案内/認知症研修認定薬剤師制度 研修会スケジュール

34 編集後記

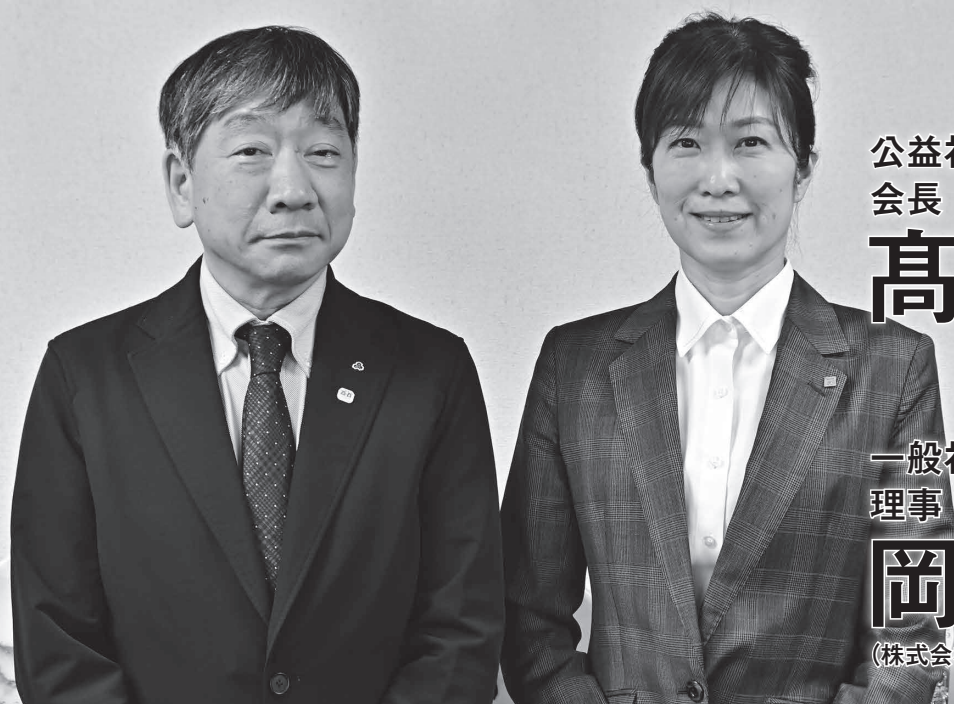
好評
連載



協会ロゴマークの由来

協会ロゴマークは、私たちの仕事である調剤業務に古くより使用されている重要な器具・薬匙(スパーテル)を基本にあしらい、さらに日本保険薬局協会の英名 Nippon Pharmacy Association の略である NPhA を薬匙の上に広げて重ね、空を翔ける鳥のようにイメージしました。今後、日本保険薬局協会が大きく羽ばたき成長するよう、希望を込めて作成されています。

特別対談



公益社団法人 東京都薬剤師会
会長

高橋 正夫氏

一般社団法人 日本保険薬局協会
理事

岡村 由紀子氏

(株式会社タカラ薬局〈福岡県〉代表取締役社長)

東京都薬剤師会の歴代会長の写真が飾られている部屋で対談は行われた。高橋正夫氏と岡村由紀子氏

首都圏7薬剤師会に呼び掛け 災害時の支援枠組みを協議

能登半島地震で活躍したモバイルファーマシー、 大都市では機動性高い小型も有効!?

高橋正夫氏が東京都薬剤師会の第13代会長に就任した半年後、能登半島地震が発生しました。都薬は新会長のもと積極的に被災地支援に動き、その活動は全国の薬剤師・薬局に広く伝わりました。今号の特別対談では、能登半島地震で自身も支援活動を行った日本保険薬局協会（NPhA）理事・岡村由紀子氏が高橋会長にマイクを向けました。

高橋会長は、東京都を取り囲む7県薬剤師会と災

害時の支援体制について協議を進めている現状を説明。今年度中には、協定締結など何らかの結論に結び付けたいと期待を覗かせました。併せて、能登半島地震で活躍したモバイルファーマシーについても言及、東京などの大都市部では、装備を絞り込んだ小型のモバイルファーマシーも有効ではないかと、自身の見解を明かしました。

（2025年3月10日収録）

会長就任に当たり 若い世代と女性を登用

岡村 高橋先生は2023年6月に東京都薬剤師会の会長に就任されました。1期目をどのように振り返っておられますか。また、来期も続投されることが確実のようですが、2期目に向けた抱負もお聞かせください。

高橋 私が就任する前に成立した予算の執行が1年間ありましたので、自分の考えを反映した運営に着手できたのは2024年4月からでした。その時に前提として考えたことは、薬局・薬剤師を取り巻く環境の大きな変化です。薬局には新しい役割が次々と求められるようになりましたし、薬剤師も薬の知識だけでは通用しなくなっています。そうした急速な変化に対応していくため、若い人材に執行部に入ってもらいたいと考えました。つまり、理事の若返りです。もう一点は、女性の登用です。従来はとかく、男性ばかりの集団になりがちでしたので、女性の理事を増やしたいと考えました。この二点を心掛けて1期目の役員を検討しました。有難いことに、今では若い理事や女性理事がさまざまな提案や意見を出してくれるようになり、会務の流れがスムーズになったように受け止めています。

近年、薬局はOTC薬の取り扱いを増やすよう国から求められています。弊社においても調剤に特化した会員が少なくなく、それを、どのように解消していくかの案も、若い方々に検討してもらっています。一方、医療DXについても、われわれのような古い世代では付いていけない領域がかなりありますので、若い



高橋正夫氏

世代が中心になって動いてもらい、われわれが教えてもらっています。

岡村 2期目の抱負としては、どのようなことをお考えですか。

高橋 今、申し上げたことに直結するのですが、若い方々が前面に出られるような体制作りをしていきたいと考えています。もう一つは、首都圏の各県薬剤師会との連携を深めていかなければならないと思っています。会長就任時に私は、会員に向け「都薬をオーケストラのような会にしたい」とメッセージを送り、各県薬剤師会とのハーモニーを創り出したいという考えを伝えました。というのも、現在、医療のあり方は2次医療圏を基軸に検討されていますが、交通網の発達した首都圏では、その考え方だけでは現状に対応できない場面も想定されるからです。それは災害対応にも言えると考えています。

都薬の災害支援は 阪神淡路大震災がスタート

岡村 能登半島地震に際し都薬

は、薬剤師の派遣など積極的な被災地支援に取り組みました。

高橋 都薬は、1995年に起きた阪神淡路大震災から支援活動を行ってきた経緯があります。その経験を、どのようにブラッシュアップしていくかが、これまでの課題でした。私自身も東日本大震災の支援に参加し、その体験を、支援に行ったことのない世代に随分伝えてきたつもりだったのですが、やはり限界がある。

しかも、二つとして同じ災害はありませんので、状況によって対応を変えなければなりません。現在、南海トラフ地震や首都直下型地震の危険が指摘されていることに加え、最近では豪雨災害や火山噴火、山火事等も想定しなければならない。だからと言って、それぞれの災害ごとに対策を幾つも練り上げることは現実的ではありませんので、地理的な特徴を踏まえ、どのような災害においても応用できる対策を用意する必要があります。

能登半島地震の際は、発災翌日の

座談会

若手経営者に聞く

～薬局経営の未来～

離島・へき地医療を守るため 地域事情に応じた 行政施策を期待

人材不足や働き方改革等に対応し 重要な時短制度や有給体制の柔軟運用

日本経済がインフレ傾向に転換し、物価高と人件費高騰が続く中、引き続き医療財政への厳しい対応が続いています。一方、人口減少時代を迎えた日本では薬剤師を含め医療職種の地域偏在も大きな問題となり、今後の地域医療を守る上で持続可能な薬局経営は不可欠です。

そこで今後の薬局業界を背負う若手経営者3氏に、

各地域事情や課題を踏まえた取り組みと将来に向けた戦略などについて話し合ってもらいました。出席者は人材確保・働き方改革等への対応を含め、薬局・企業としての魅力づくりの必要性を指摘、地域医療インフラとしての薬局の重要性について行政に理解を求めるとともに、地域に応じた行政施策が欠かせないことを改めて指摘しました。

左から藤田、宮里、松村の3氏

出席者（発言順）

株式会社コスモファーマ（福島県）
代表取締役社長

藤田 愛里氏

Airi Fujita

株式会社メディックス（東京都）
代表取締役社長

松村 有里子氏

Yuriko Matsumura

株式会社薬正堂（沖縄県）
代表取締役社長

宮里 早香氏

Sayaka Miyazato



人材確保に向け実務実習やインターンシップなどを工夫

——初めに各社の事業概要についてお聞かせください。

藤田 弊社は福島県に本社を構え、197店舗を展開しています。北は北海道、南は和歌県まで出店していますが、その内の半数が福島県にあるのが特徴です。薬剤師は正社員とパートを合わせて510人、医療事務を含めると全体で約1,100人のスタッフがいます。薬局事業の他に医薬品卸、介護施設を運営するグループ会社もあります。

松村 弊社は東京都多摩地域を中心に、神奈川・千葉・栃木の各県に61店舗の薬局を展開しており、薬剤師は正社員・パート計247人が在籍しています。本社や店舗の事務スタッフを含めると、全従業員数はおよそ460人となります。メディックスグループとしては、調剤薬局事業に加え医薬品卸事業、サービス付き高齢者向け住宅1施設および障がい者雇用の特例子会社1施設を運営しています。

宮里 弊社は沖縄県内に42店舗を展開しており、薬剤師は正社員とパート社員を合わせて122人、薬局部門全体では約400人の社員が在籍しています。すこやかグループとしては薬局のほか、介護福祉事業、保育事業、サロン事業、ホテル事業、IT事業などを展開しています。

——人材確保、採用にはご苦労されていると思います。現状をうかがえますか。

松村 弊社では、毎年10～15人の薬剤師の採用を目標としており、本年は新卒薬剤師を10人採用することができましたので、一定の目標は達成できたものと考えています。ただ、就職活動時期が早まっている昨今、内定者フォローの期間も長期化し、いかに継続的な採用活動を行うかが課題となっています。

LINEやYouTubeなどのSNSも活用し、若手社員のリクルーターにも活躍してもらうことで、入社までの持続的な情報発信にも取り組んでいます。新入社員の中には弊社で実務実習を経験した者も一定数います。また、実務実習の期間中に、弊社の新人研修をはじめとする社内研修にも参加してもらっています。現場の薬剤師や他の従業員との接点を持ちやすい環境を

整えており、こうした機会を通じて、生涯学習や会社全体の雰囲気を感じ取ってもらえるのではないかと考えています。

宮里 沖縄県には薬科大学がないため、人材確保はすごく大変です。弊社では、県外の薬科大学を積極的に訪問し、学生と交流をしています。1泊2日のインターンシップを通じて、各店舗や事業内容等を体感してもらう取り組みを行っています。基本的にUターン就職が多いのですが、Iターン就職の促進にも力を入れています。本年度は9人の新卒採用となりました。



藤田愛里氏

試行錯誤を重ねた結果、弊社の取り組みや理念に共感してもらえたことを嬉しく思っています。

また、派遣の薬剤師も多く在籍していますが、コスト面の負担が軽減できないことから、可能な限り正社員への転換を進めたいと考えています。さらに派遣薬剤師の多くが県外出身者であるため、長期的な人材の定着という観点でも課題を感じています。

藤田 本拠地が福島県ですので、新卒採用となると福島県、または近県の大学からの採用が中心となっています。ただ、少子化による学生数の減少やUターンが少ないこともあり厳しい状況です。福島県の住みやすさや魅力を発信していくこと、また、働きたいと思ってもらえる会社の魅力づくりが必要だと考えています。

宮里 社員の定着を図る上では、人事制度の整備も大切だと考えています。弊社では、等級制度と専門キ